



2023.04 vol.37

# 協力隊通信

加藤絵美



## 令和4年度飯豊町 地域おこし協力隊活動報告会

パネル展示では、各隊員が今年度の活動を振り返って報告しました。パネルに書き切れなかった分は自己紹介のほか、「今年の活動を振り返って」など7つのトピックを立てて、ディスカッション形式で紹介。後藤隊員がファシリテーターを務めました。

「飯豊のここが好きになった」では、家財隊員が「自治会」に参加することで地域のさまざまなことが分かってきたこと、後藤隊員と武田隊員が飯豊町の温かい「人」にたくさん助けられていること、小野隊員が自身のミッションであるゼロカーボンを考えるうちに町の8割を占める「森」が好きになってきたこと、そして私が近隣の食材を活かした「外食」が楽しみになってきたことと、各々の視点から町の魅力を捉えていました。

「来年どんなことしたい」では、家財隊員はすでに始めている「居場所づくり」で町民のみなさんにも協力していただきたいこと、後藤隊員は「多すぎて書ききれない！」とやりたいことがどんどん広がっていることを打ち明け、武田隊員は農業をベースにしなから「もっと色んな人と関わりたい」、小野隊員は「省エネ診断」で町民の方々の省エネに役立つ情報を提供したいこと、そして私は、町の誇るべき日本百名山の一座「紅葉の飯豊山を見るツアー」を造成したいことを発表しま

した。このように多様なミッションと視点を持つ協力隊ですが、最後にはそれらをコラボレーションさせたいという意見で一致。次年度は隊員それぞれの活動をつなげ、町の魅力を発信したいという考えに至りました。

そして参加した方々からはさまざまな感想やご意見を頂きました。「飯豊町の可能性を町外県外からの視点で見いだして、町外への発信だけではなく、町民にも気づきを与えることのできる活動に期待しています」と、協力隊の活動が受け入れられていることをありがたく思うとともに、協力隊の活動がどなたかの刺激にもなっていることに喜びを感じました。

一方、「昨年とあまり変わり映えがなく、隊員さんたちの成長というか得られたものを分かりやすく説明して貰えたら」とのご意見も頂きました。受け手のニーズも聞きつつ、今後報告会について改めていきたいと思えます。

他にも「報告会の内容を、来られなかった人にも渡した方が良いと思っただ」との声もありました。

隊員間でも同意見で、ウェブサイトに掲載するなど何らかの形で報告させてもらいたいと考えています。



11日はリサイクル店「出張版・くるくるSHOP」を開店。こちらも春物や子ども服を求める方に好評でした。

